広報 すぎなみ

Suginami

支えあい共につくる
安全で活力あるみどりの住宅都市 杉並

1/15
平成30年（2018年）
No.2220

杉並を元気にする
湯煙のコミュニティー。

熱い湯にざぶん。肩まで湯に漬かり、壁の富士山を見上げながら1日の疲れを癒やす。そんな至福のひとときが銭湯にはあります。高円寺に根を張り84年という小杉湯は、そんな昔ながらの銭湯の魅力を残しながら、創造性あふれる取り組みの数々で多数のファンを獲得しているユニークな銭湯です。店主2代目と3代目のお二方を訪ね、銭湯の今とこれからのこと、街への思いについて伺いました。

特集
すぎなみビト

小杉湯
2代目 平松 茂
3代目 平松 佑介

Contents ―主な記事―

6｜区民意見を募集します　7｜冬　防災まちづくりフェア　8・9｜個人住民税・所得税の申告期限は、3月15日㈭です　16｜善福寺川「水鳥の棲（す）む水辺」創出事業シンポジウム

〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1 ｜ 3312-2111（代表）FAX 3312-9911（広報課直通） ｜ 区ホームページ：http://www.city.suginami.tokyo.jp/ ｜ 発行：杉並区 ｜ 編集：広報課

広報すぎなみは月２回（１・15日）発行。新聞折り込みのほか、区の施設・駅・コンビニエンスストアなどの広報スタンドに設置しています。

世代や文化を超えて自由に交流できる場所は、銭湯のほ かにありません。

すぎなみビト × 小杉湯

interview

2代目 平松 茂　3代目 平松 佑介

プロフィール：平松茂（ひらまつ・しげる）。小杉湯2代目店主。昭和26年杉並区生まれ。会社員を経て、昭和56年に小杉湯の経営を引き継ぐ。「交互浴」「ミルク風呂」「銭湯ライブ」などを発案し、小杉湯の名物に育て上げた。

プロフィール：平松佑介（ひらまつ・ゆうすけ）。小杉湯3代目店主。昭和55年杉並区生まれ。会社員を経てベンチャー企業に参加。平成28年に小杉湯の経営を引き継ぐ。「走る小杉湯」「銭湯暮らし」など新機軸の企画を打ち出し反響を呼ぶ。

―小杉湯の人気の源泉は、どこにあるとお考えですか。

佑介：お客さんに恵まれなかった小杉湯を祖父が買ったのが昭和28年のこと。祖父は「きれいで気持ちいい銭湯」にとことんこだわって小杉湯をもり立てたと聞いています。その思いを父が継ぎ、さらに大勢のお客さんに楽しんでもらいたいと、ミルク風呂、熱い湯船と水風呂に交互に入る交互浴など、新しいことをいくつも手掛けていく中でお客さんの数がぐんと増え、繁盛店になったというのが小杉湯の歴史です。ですから、やはり「きれいで気持ちいい銭湯」が小杉湯の最大の魅力ということになります。祖父や父の思いを私も引き継ぎましたから、これはもう平松家の家訓です。

―3代目が後を継いでからは、アイデアあふれる企画やイベントの数々が話題になっています。

佑介：私が経営に携わるようになってから特別なことをするようになったわけではないんですよ。日替り湯や交互浴を始めたのは父の代からですし、銭湯ライブ、待合室のギャラリーも同様です。そんなアイデアの数々がお客さんを引き付けて、小杉湯を繁盛店にしたということです。私が後を継ごうと決心したのは、小杉湯に将来性があったからです。後を継ぐかどうかを考える上で、経営状態は見逃せない要素でしたから。

―昔の銭湯はどんな様子だったのでしょうか。

茂：昔はお風呂がない家ばかりだったので、どの家庭も夕方になると家族総出で銭湯にやってきて、待ち客が出るほどでした。そういえば、お客さんのお世話をする女性を雇っていた時代がありました。女湯の洗い場に待機していて、浴場から出てきた子どもたちの体を拭いたり、洋服を着せたりするのが彼女たちの仕事でした。そのおかげで、小さなお子さんを連れてくるお母さんは、ほんの少しだけ、ゆっくりお風呂に漬かれたんですよ。

―時代は流れ、銭湯の役目は大きく変わりました。

佑介：内風呂が当たり前の今、「日々を清潔に過ごすための施設」という公衆衛生の役目は終わりました。しかし、これからの銭湯には、人と街を支えるという新たな役目があると私は考えています。

―詳しく教えてください。

佑介：小杉湯で働くようになってから、「銭湯は街の縮図」だと考えるようになりました。小杉湯には多様なお客さんが偏りなく訪れます。それは高円寺という街が、多様な人たちを受け入れて成り立ってきた街だからです。高齢者から若い人まで幅広い世代を受け入れてきたのはもちろん、アーティストやミュージシャン、外国人など、さまざまな文化を持つ人を高円寺は受け入れてきました。興味深いのは、高円寺に住みたいと思ってやって来る人たちは皆、自分たちが住む街をよくしていこうという強い気持ちを持っているということです。そこから生まれるエネルギーが、高円寺には満ちあふれていると感じます。そして、街と同じく小杉湯にも祖父の代からのエネルギーがあって、しかも、そのエネルギーは現在進行形で蓄積されています。

茂：私もそう感じます。今、小杉湯には、一緒に銭湯を盛り上げたいと言ってやってくる人たちのアイデアや意気込みが充満していますよ。

佑介：ですから、高円寺が元気だから小杉湯が元気なのか、小杉湯が元気だから高円寺が元気なのかは分かりませんが、とにかくどちらも元気なわけです。そうした状況をずっと見てきて思ったのが、街と銭湯は、お互いに元気を与えたり受け取ったりする関係にあるのではないか、ということです。その見方が正しければ、小杉湯がさまざまな取り組みによってエネルギーをさらに拡大していくことで、街のさらなる活性化を促すという役目を果たせることになるのではないでしょうか。もちろん、そのためには銭湯の魅力というものを新たに打ち出していく必要があります。新たな銭湯文化を提案していくということです。

―具体的には、どんなことに取り組んでいくのでしょうか。

佑介：小杉湯を、自宅でも職場でもない「第3の居場所」に育てていくことが現在の目標です。最近は、友達と集まったら銭湯に行く、飲み会の後にひと風呂浴びる、女子会の前に銭湯でリラックスするなど、銭湯を身近に感じてくれている方が増えているように思います。世代や文化が異なる多様な人が自由に訪れてくつろげる場所なんて、銭湯のほかにはありませんよね。しかも、難しく考えずとも、裸になって一緒にお風呂に入るだけで、自分が地域の一員として、ほかの住人たちとつながっていることを実感できます。銭湯にはそんな秘められた力があることを証明していきたいと思っています。

―果敢な挑戦ですね。

佑介：小杉湯を4代目、5代目に継承して、100年はもちろん、200年続く銭湯にしていきたいと思っているので、今はとことん努力をしようと覚悟を決めています。それが祖父と父から小杉湯を受け継いだ、私の責任ですから。

＼小杉湯を盛り上げるイベント／

pick up!

銭湯ライブ

数ある小杉湯のイベントの中でも抜群の知名度を誇っているのが、浴場で開催される有名無名のミュージシャンによるライブ。複数のミュージシャンが集う「フェス」が開催されることも。抜群の音響効果で訪れる人々を魅了している。

ヨガ・ピラティス教室

29年度 健康づくり表彰 最優秀賞受賞

脱衣所や浴場で開催されるヨガ・ピラティス教室には、幅広い年代が参加。お子さん連れも多い。こうした取り組みで地域の健康づくりを促進しているとして、小杉湯は杉並区健康づくり表彰で、29年度最優秀賞を受賞した。

アーティスト in 銭湯

小杉湯の隣にあるアパート「湯パート」の102号室は、1カ月交代制のアトリエとして貸し出されており、地域の人とアーティストとの交流の場になっている。湯パートの個性的な壁画は、入居アーティストの作品。

“描く銭湯”で小杉湯を彩る。

小杉湯のスタッフであり、“銭湯図解”のイラストレーターとしても知られる塩谷歩波さん。小杉湯の館内には、いたるところ塩谷さんのイラストが添えられたポスターが張られている。入浴方法や注意書き、イベントの告知など、その内容はさまざま。塩谷さんのイラストに会いに行くのも、小杉湯の楽しみの一つだ。

風流風呂→
四季折々の薬湯を提供。月1回実施。

日替り風呂・週替り風呂↓

銭湯へいこう！

昔ながらの銭湯で、心身ともに温かくリラックスしてみませんか？
区内の銭湯情報は、杉並浴場組合ホームページ「せんとう.jp」をご覧ください。

せんとう.jp 検索

すぎなみビト…区内外で活躍する区民などの紹介を通して、地域の魅力を発信していきます（毎月15日号に掲載）。